

## ◆ 「沖縄未来社会創生シンポジウム」で本校生徒が発表しました。

12月8日(日)琉球大学教育学部棟で、「第1回沖縄未来社会創生シンポジウム(OFSIS)」が開催され、県内から集まった高校生100人あまりが探究型学習の成果を発表しました。本校からもSDGsを学習した4グループがパネル発表を行いました。本校進路部ではこの夏、推薦入試受験予定者向けAO・推薦入試対策講座を開設し、生徒自らが社会問題から課題を見つけ、解決を探究しグループ討議を行い、パネルを作成する学習を行いました。発表会ではその成果物として作成したパネルを展示しました。このほかにも本校1年生25名が他校の発表を見学し、1月から行う探究活動に生かすために、テーマ設定のしかた、探究の進め方などについて学習を深めました。そのほか、関西学院大学大学の野波教授による「誰がなぜゲーム」と題したワークショップが行われ、参加した生徒たちは、熱心に活動を行いました。



【本校3年生 発表の様子】



【本校3年理数科生徒の発表】



【ワークショップ参加1年生】

ワークショップでは、公共施設の設置を題材にしており、社会にとって必要な施設であっても、行政、地域住民、親、事業者と立場が違えばその必要性には差があること(NIMBY問題)を知りました。異なる立場で考えることの重要性を実感し、その解決に向けた方法について学びました。

## ◆ 「琉大カガク院生」2名が日本分子生物学会(福岡)に参加しました！

12月6日(金)に福岡国際会議場で行われた、「日本分子生物学会：高校生によるポスター発表」に本校2年生2名が参加し、「琉大カガク院」で研究した成果を発表しました。2名は、琉球大学熱帯生物圏研究センターで他校の1名と一緒に週末を利用して研究を進めています。研究のタイトルは「結核菌の病原因子と会合する宿主タンパク質の機能解析」でマクロファージ(免疫細胞)の遺伝子をノックアウトすることでその遺伝子が作り出すタンパク質の機能を確かめる研究です。高校生が取り組むにはレベルの高い遺伝子操作を伴う研究ですが、高江洲准教授をはじめとする琉大カガク院に関わる先生方の指導と支援により、研究を進めることができ、学会で発表する機会を得ることができました。そのほか、ジャンボタニシ(外来種)の駆除研究、ゾウリムシの光周性の研究、酵母菌の研究など本校でも参考になる研究事例があり、参加した生徒は他校の優れた研究を通して大いに刺激を得ることができました。



【本校生徒発表様子】